

平成 29 年度 1 月 7 日土曜日、今年度第 2 回目となる学校公開が行われた。一高 SSH の運営指導委員の先生方もいらっしゃるなか、70・71 回生は日頃の取り組みの成果を発表した。

## ◆概要

今回の学校公開に向けて、71 回生は災害研究、70 回生は国語・数学・英語・地歴・公民・情報・物理・化学・生物・地学・保体・家庭・音楽の全 13 ゼミに分かれて研究を行ってきた。

災害研究には、文理それぞれの内容を含む 4 部門があり、各自の興味関心に応じたテーマを研究してきた。今回、初めての研究発表となった 71 回生は、70 回生や先生からのアドバイスを聞いて、今後研究を進めるうえで、自分たちに何が期待されているかを知ったのではないかと思う。今後、竹のように速くしなやかに成長していくことを期待する。

70 回生はそれぞれの分野のポスター発表をした。研究発表に徐々に慣れつつはあったものの、研究者としてまだ伸び始めの若葉に過ぎない私たちは苦勞することも多く、それゆえ、厳しく苦い指摘を受けた班も多かったのではないかと思われる。しかし、全体としてはプレゼンテーション能力の向上がみられ、相手の反応にアジャストして補足することにも慣れてきた様子だった。

学術研究に取り組めるのは、毎週 1 時間という限りある時間ではあったが、各々が、知的好奇心をはじめとする様々な原動力によって、一つのテーマに関する知識や理解を深めようと費やしてきた時間は、賛否両論あれども、決して無駄なものではないだろう。来賓の先生方からは、一高らしい発表があったとお褒めの言葉をいただいた一方で、やや実験不足であることや、グラフが見づらいことなど様々な課題も指摘していただいた。特に、かねてから指摘されていた、文系研究に統計学的手法を取り入れることや、理系の実験における再現性の問題に関しては、さらに改善の余地があるのではないだろうか。

## ◆生徒の感想

- ・感想をもらうことで自分が報われたように感じた。自分の研究にちょっと自信がもてた気がする。自分が見たかったものが自分の発表と重なっていたために視られなかったのが悔しい。
- ・自分のプレゼンテーション能力が著しく向上した。個人研究ということで、自ら動かなければならず、大変だったが、自分のレベルアップにつながったと考えられる。
- ・他の多くのやるべきことと並行しながら研究に取り組むのは、時間的に大変厳しかった。だが、それで却って、取捨選択して物事に臨めるような力は養われたのではないか、と思う。自分たちの成果を多くの人に伝えようとするのは新たな気付きを与え、深く探究することへつながる。今回の気付きを最大限にいかした論文、今後の発表にできるようにしたい。



・一回目であまり聞き手のほうを見て発表することができず、ポスターや原稿を見ながらになってしまったが、三回目になると聴衆の方々にも気を配れるようになり、プレゼンテーション能力は向上したと思う。また、自分が知っているから他人も知っていると思い込んでしまい、説明をしていなかった単語について質問を受けることが多くあったので、自分が何も知らない側になったときのことを想定しながら、もっとわかりやすいポスターを作るべきだと思った。今後改善していきたい。

・やはり、いつもは科学系の部同士が集まる発表会なので、今日のような一般の方が多く集まる場では、いかに「分かりやすく」伝えるかで苦戦しました。化学的な言葉を説明しようにも、その説明にも化学用語が必要で、日常的なものを例に出すことが難しかったです。全体の発表を見ると、特に一年生の発表の完成度が高く正直驚きました。SSHの活動はもう少し続くので、僕たちも完成度を高めていきたいです。

## ◆編集後記

これまで五年の年月をかけ涵養されてきた、一高に広がる SSH の土壌は、我々一高生を逞しく成長させた。それは一代に限ったものではない。次の世代へと継承され育ってきたものである。先輩の発表から学び、自らの発表に対するアドバイスを聞くことで経験のトリクルダウンが起きてきたのである。

一高の SSH の特徴の一つとして、文系の参加が挙げられる。スーパー・「サイエンス」・ハイスクールであっても、サイエンスに求められる論理的思考は文理問わずに大切ではなかろうか。今回の発表に関するアンケートでは、研究・発表を通して多面的な視点からの論理的な考察力が獲得できたといった意見が多く見られ、文系の生徒も SSH の恩恵を実感している様子が見受けられる。今回の研究・発表のプロセスは理系選択者に限らず一高生全体の収穫であったといえるだろう。

本校の SSH 指定は今年度を以て一旦区切りの年を迎える。継続いかに関わらず、一高生には今回の研究・発表を通して得たものをぜひ来年の学術研究 SAB に存分に活かしていってもらいたい。そういった願いを込め、2年学術研究委員より、これらの言葉を最後に贈ろうと思う。

1, *Knowing is not enough; we must apply.*

*Willing is not enough; we must do. (Goethe)*

2, *Only time will tell you about*

*I'm right or I am wrong. (The Beatles)*

3, *The wind has risen, we need try to live. (Paul Valéry)*



Goethe



Paul Valéry